経営比較分析表（令和4年度決算）

長崎県　佐世保市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	自治体職員
資金不足比率(%)	**自己資本構成比率(%)**	**普及率(%)**	**1か月20m³当たり家庭料金(円)**	
-	59.12	98.38	4,195	

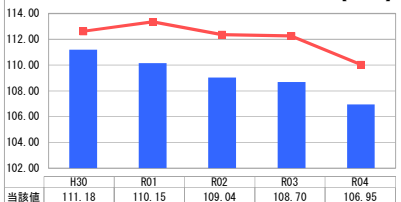
人口（人）	面積(km²)	人口密度(人/km²)
240,473	426.01	564.48
現在給水人口(人)	**給水区域面積(km²)**	**給水人口密度(人/km²)**
233,828	219.92	1,063.24

グラフ凡例
- ■ 当該団体値（当該値）
- ー 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性

①経常収支比率(%)

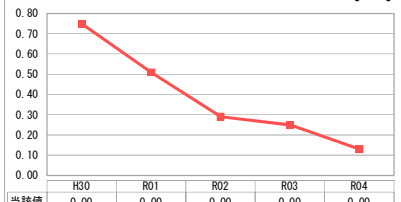
【108.70】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	111.18	110.15	109.04	108.70	106.95
平均値	112.62	113.35	112.36	112.26	110.04

②累積欠損金比率(%)

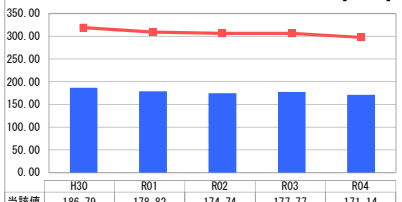
【1.34】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
平均値	0.75	0.51	0.29	0.25	0.13

③流動比率(%)

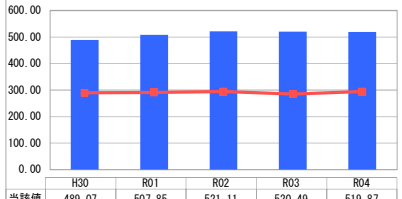
【252.29】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	186.79	178.82	174.74	177.77	171.14
平均値	318.89	309.10	306.08	306.15	297.54

④企業債残高対給水収益比率(%)

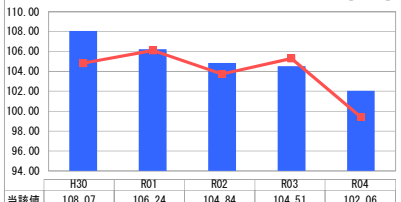
【268.07】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	489.07	507.85	521.11	520.49	519.87
平均値	290.07	290.42	294.66	285.27	294.73

⑤料金回収率(%)

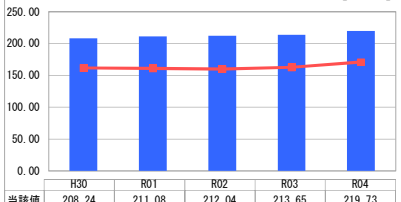
【97.47】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	108.07	106.24	104.84	104.51	102.06
平均値	104.84	106.11	103.75	105.30	99.41

⑥給水原価(円)

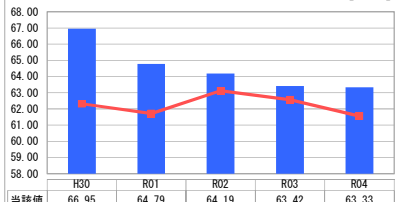
【174.75】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	208.24	211.08	212.04	213.65	219.73
平均値	161.82	161.03	159.93	162.77	170.87

⑦施設利用率(%)

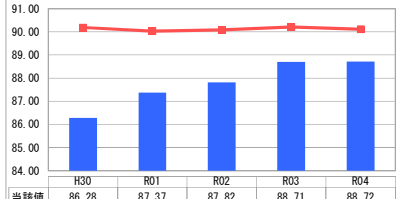
【59.97】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	66.95	64.79	64.19	63.42	63.33
平均値	62.32	61.71	63.12	62.57	61.56

⑧有収率(%)

【89.76】

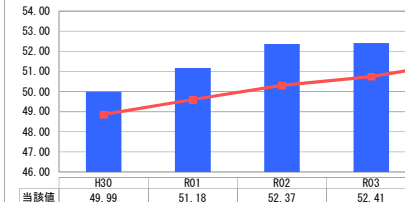


	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	86.28	87.37	87.82	88.71	88.72
平均値	90.19	90.03	90.09	90.21	90.11

2. 老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率(%)

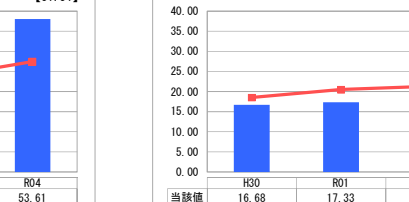
【51.51】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	49.99	51.18	52.37	52.41	53.61
平均値	48.86	49.60	50.31	50.74	51.49

②管路経年化率(%)

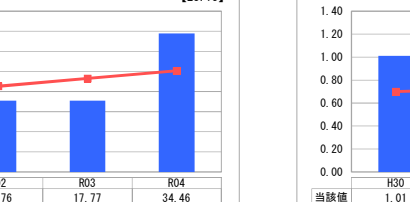
【23.75】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	16.68	17.33	17.76	17.77	34.46
平均値	18.51	20.49	21.34	23.27	25.18

③管路更新率(%)

【0.67】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	1.01	1.20	0.39	0.41	0.48
平均値	0.70	0.72	0.69	0.69	0.67

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率、②累積欠損金比率、③流動比率
　経常収支比率は昨年度よりやや悪化し、流動比率は類似団体平均値を下回っているものの100%以上を維持できている。一時借入金もなく累積欠損金も生じていないため、短期的な支払能力に問題はなく健全な状態といえる。

④企業債残高対給水収益比率
　給水収益が減少したが、企業債残高も減少したため、昨年度よりわずかに下降している。類似団体平均値は給水収益の約3倍の企業債を保有した状態であるのに対し、本市は給水収益の約5倍を保有している。

⑤料金回収率、⑥給水原価
　料金回収率は昨年度より下降しているが、100%以上かつ類似団体平均値を上回っており、給水に係る費用を料金で賄えている。
　給水原価は昨年度より増加し、類似団体平均値を上回っている。本市の地理的特性により施設数が多く、資本費及び維持管理に係る経費が高額であることが要因である。

⑦施設利用率
　類似団体平均値を上回っているものの、配水量の減少により昨年度より利用率が下降している。

⑧有収率
　漏水調査や老朽管の更新等の有収率向上のための取組により、昨年度よりわずかに上昇した。類似団体平均値を下回っているものの、有収率は近年上昇している。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
　年々資産の老朽化が進んでおり、類似団体平均値を上回っている。

②管路経年化率
　建設年度不明の古い管路を「法定耐用年数を経過した管路」として整理したことにより、昨年度より管路経年化率が上昇し、類似団体平均値を上回っている。

③管路更新率
　昨年度より更新延長がやや多かったことから更新率は上昇したものの、類似団体平均値を下回っている。

全体総括

　一定の純利益を確保し、経営の面では健全性は保たれてはいるものの、人口減少などにより長期的に見ると給水収益が減少傾向にある。また近年、浄水場や基幹配水本管の更新を行っていることから、財政的弾力性が逓減傾向にある。
　老朽化の状況においても、管路経年化率は類似団体平均を上回っており、機能維持のための適切な管理・更新を行っていく必要がある。
　さらに、地理的特性により施設数も多いことから、可能な限り施設の統廃合や長寿命化等によるライフサイクルコストの低減など投資規模の最適化について検討し、「水の安定供給」と「健全経営の持続」を両立させるための方策の検討を進めていかなければならない。